

JR津田沼駅南口開発の進展に伴う児童増加対応について 地域住民対象説明会 議事録（要約）	
開催日時	平成25年10月12日（土） 18：30～20：00
場 所	谷津公民館
出席者	[市教育委員会] 市瀬学校教育部参事、小野寺教育総務課長、島本学校教育部主幹

島本主幹 （JR津田沼駅南口開発の進展に伴う児童増加対応について、資料に基づいて説明）

【質疑応答】

質問者 意見を集約するということは、この地域に住み、暮らす人、要するに、地元が同意しなければものは進まないということ。

奏の杜が谷津小学校の通学区だと売り出したとき、市がそれに対してどんな約束をしたのか。谷津1丁目の人たちにも、谷津小学校に行って音楽やりたいから、わざわざ船橋から引っ越してきたとかという人が結構いる。まして、谷津6丁目の人が向山幼稚園まで乳母車を引いて何分で行けるのか。しかも坂がある。あんな危なっかしい踏み切りを通過して、また急坂を登っていったときに、一体何分で行けるか、測ったのか。

回答者 測っていない。

質問者 なんら子どもに対しては配慮していない。それに対して明確にしてほしい。

回答者 1点目の、意見を集約できた段階までというようなお話については、本日を含めて、現状のお話をさせていただいて、その説明の中で意見を伺っている。その後、ご意見を考慮した中で、項目立てて評価をし、対策案をこういう方向、それと合わせた対策として安全対策としてはこういう策というようなご説明をもう一度させていただく。

奏の杜を谷津小学校区ということで、市がどういう約束をして売ったのかというようなことだが、基本的に市が、お約束ということをしたのかどうかというところはわからない。

谷津6丁目から測ったかということについては、6丁目から乳母車を引いて

歩いたということはしていない。歩いたということをしたかということであれば、現在、721世帯のマンションが建っている交差点から向山、あるいは谷津南へと、言ってしまえば、私の子どもが今、3年生だけれども、子どもを連れて歩いたということはさせていただいた。

質問者 私立幼稚園に通っている5歳の息子と1歳の娘がいる。過去については私も言いたいことは幾つかあるが、未来志向にと変えていかなければということで、1つ、まず確認をさせていただきたい。今の推計で案が幾つか出されたが、これは721世帯のマンションと869世帯のマンションと750世帯の大規模計画、それからさらに幾つか中小、低層の地域全部の推計をきちんと踏まえた上でということか。

回答者 基本的には2,800世帯ということ推計の中ではとっている。通学区域を変更した場合の案については、750世帯のタワーマンションを加えた形で推計している。

質問者 学区が変更になる場合に関して要望だが、これから就学する家庭や、今、就学中のご家庭全部に希望調査をお願いしたい。うちも音楽をやらせたいと思って谷津1丁目に住んだが、こういう状況であれば向山小のほうが余裕あるのであればそっちがいいというようなご家庭もあるだろうし、その辺の希望が一律に、この区域はどここの小学校というふうにしなくて、ある程度希望調査を踏まえてという形でやっていただければと思う。

回答者 就学中の子ども、あるいは未就学の子どもさんを持つご家庭に希望をとってほしいといご意見ということで受け止めさせていただく。

質問者 私、1丁目に住んでいる。まずこの話の前に、丁々別の人口等がわからないので、その辺を教えてください。例えば奏の杜の開発計画がなかった場合の谷津小学校の推計は、現状通りでいけていたのか。

もう1つは、大規模開発が行われた場合、学区を決定するのは誰なのかということについて、開発業者からあらかじめ行政にここの学区はどこだということの指定をもらうのか。それとも開発業者が勝手にここの地区はどここの小学校へ行くということを決めているのか。

最後に、奏の杜地区全体を分散して学区に、いわゆる既存地域には迷惑をかけない、影響を与えずに、奏の杜地区自体の通学区域を、新たに1校新設が無理ならば分散していく。先ほども他地区を巻き込んで分散をするという案

が検討されているわけだから、1区を分散することは十分に可能なことだろうと思うが、そのことについてお伺いしたい。

回答者 奏の杜の開発がなかった場合については、仲よし幼稚園跡地を入れて最大38学級になる。仲よし幼稚園跡地を含めなければ、32、33規模ではあったのかなというところは考えられる。

質問者 仲よし幼稚園跡地というのは何か。

回答者 750戸マンション建設予定地のことである。750戸を含めて38学級であるので、なかよし幼稚園跡地を除いたデータを本日は持ってきていないので、この中でご理解いただければと思う。

次に、開発業者が決めているか、あるいはどこで決めているかというご質問。通学区域については、教育委員会で定めている。その上で、一定規模の開発においては関係各課に協議ということで、その業者が回ってくるので、その段階で学校という部分ではヒアリングというような中で業者にお伝えするというような形になっている。

次に、奏の杜だけを動かすという点について。奏の杜というのが谷津小学区の真ん中に位置しているというところから、今回、スポット的に移動させるという案をつくっている。

そういう中でこの主要道路、あるいはマンションというところで区域は設定させていただいたということになっている。

質問者 今話があった、2点目。事前に業者から問い合わせがあれば、その時点で内意を与えることなのだろうと思うが、既に通っている学区があるわけで、当然に不足が予想されていたはずであるにもかかわらず、谷津小学校でオクケーだよという承認を与えていたのか。我々に説明もなく、そこで教育委員会が1業者に承認を与えるというのは行政的におかしいのではないか。

もう1つは、一マンション、あるいは一地区をどこか通学を変えるのはおかしいのではないかという話だが、船橋の山手地区で行われたいわゆる、旭硝子の跡地に新たに大規模開発が行われた件。

やはりこの時点では船橋の教育委員会に問合せがあって、それは無理だ、小学校を移しなさいと業者に依頼して、その業者が調達をしてバスで運んでいるというような事実がある。当然に我々にも既に住んでいる地域があるわけだから、通学している区域、そこを移転させて新しいところの者に与えるというのは明らかにちょっと違うのではないかという感じが、素朴な疑問とし

である。その辺をもう一度説明いただきたい。

回答者 1点目の業者との関係だが、これまでの推計の修正について、年度末に推計修正を必要とするというような状況になってから、業者に対して既に着工中の869戸のマンションのディベロッパー、あるいは仲よし幼稚園跡地の提案事業者に対して現状は谷津小学校で通うということの困難性というような話はさせていただいている。

直近でいうと、721世帯のマンションであるとか、そういったところについては、その段階では推計の修正が必要という判断には至ってない時期であったため、721世帯のマンションを売り出す際には、現状の通学区域でご案内をした。その後になって、推計の修正が必要であり、通学区域の検討もしなければならないという話は販売元のほうに2月の時点で話に行ったところである。

2点目の船橋市の市場小の話だが、こちらについても船橋との情報交換の中で、業者が開発をするといったときに、船橋ではその通学区の学校には通えないというような話の中で、その当時の開発人口ということが明確ではないが、その後が開発戸数が大きく増えたというような展開もあったようである。その子どもたちをその小学校区で受け止めるということではできない中で、開発の業者のほうで、そこの循環をさせるバス、これを走らせるというような中に子どもさんの登下校時間、この際にも利用できるようにしたというように伺っている。

質問者 谷津小の児童数の増に伴って谷津幼稚園が向山幼稚園に移転するというところで、6丁目から通うのは無理ではないかということだけではなく、向山幼稚園もパンクするのではないか。また、一中の教室数が不足するということは今の一中の学区を全部考慮して、それだけの数を不足するとしているのか。

回答者 1点目の谷津幼稚園の移転ということに絡んで、向山幼稚園自体が保育室の不足に陥るのではないかということだが、向山小学校の教室と向山幼稚園、それに対応する幾つかの流れの中で、谷津幼稚園の教室、6保育室と管理諸室、こういったものは手当しないといけないということは考えている。その上で、谷津幼稚園と向山幼稚園の中で幼稚園児については受け止められるのではないかと聞いている。ただ、保育については、相当数不足は生じるだろうというような見込みを立てているというのが現状、子ども部と連携をした中ではそのように考えている。

中学校の学区については、現状の中では第一中学校の学区はそのままという
ような展開の中で、8教室、7教室の不足というような推移にとらまえてお
り、現段階において中学校区を変更するというようには考えてはいない。

質問者 それはなぜか。例えば、七中にしたって、今生徒数がものすごく一時期に比
べて減ってきており、空教室がある。谷津3丁目は花の木公園から向うのほ
うは今一中に行っている。それを七中に持っていったらどうかというのは、
普通考えることではないのか。それを考えないで、そのまま一中というふう
に考えるのはどうしてなのかなと。小学校はいろいろな案を持って考えてい
るにもかかわらず、中学校に対して考えてないというのは、どうしてなのか。

回答者 基本的に、今は谷津小の児童増に少し特化して考えさせていただくとい
うことで進めている。その後、中学校区が変更になるかどうかということがあ
るが、一定の習志野市の学校の適正化というようなルールが必要だというよ
うに考えていて、そのルールづくりというものも同時に進めていかなければ
ならないことの中で、その後、段階を踏んで対応すべきは対応するというこ
とで考えている。

質問者 それで、またぎりぎり間に合わなくなった場合は、ぎりぎりでみんなをごま
かそうというわけか。

回答者 そういうことがないように、ルールをつくる。

質問者 そんなことすぐに考えられるだろう。

回答者 ルールをつくるに当たっては、その地域、地域で、住民の代表さんである
とか、他の自治体の例を見れば、そのような組織立てをした中で検討してい
きたいというふうに考えている。そのため、現在は小学校に特化をさせてい
ただいている。

質問者 今のご説明だが、私、主任児童委員をしており、幼稚園のふれあい広場など
に行くと、保護者から、「向山にも行けると聞いたが、小学校はどうかか」
とかよく聞かれる。また、立場上いろいろな方とお話で、質問されたりする。
そうした場合、小学校だけの問題ではなく、皆さんはその後のことまで考え
られている。幼稚園、小学校、中学校という問題はやっぱり子どもの先々の
ことを親は考えているため、小学校問題に特化することなく、その一部分だ

として、幼稚園や中学校の問題も考えていただきたいな、後回しにせずに考えていただきたい。

回答者 意見として受け止める。

質問者 東京都のほうで現役の小学校教員をしています。教師の立場上、やはり子どもたちのかかわりということもちょっと考えていただきたいと思う。現状、谷津小学校の運動会でグラウンドが小さいということもあるので、校舎だけ広げてもやっぱり何の解決にもならない。実際に予想を見ても平成30年代を何とか乗り切ろうというのを感じるが、平成30年代を何とか乗り切ったら、次の40年代はまた元に戻るから、今まである校舎や経済合理性を考えれば、そういうものを使い回していこうという考えだけれども、やはり平成40年代開発が行われてまた増えるかもしれない。

何故、新校舎建設や、新しい学校を建てるということが検討に入っていないのかおかしいと感じる。

第一中学校のほうに高学年だけ移すというのは、絶対に反対。クラブ活動は4、5、6年でやっている。それは教育委員会も絶対にわかっているはず。それを4、5、6年で分ける、それはない。

今、異学年交流で高学年、低学年交流、1年生、6年生交流なんかこの学校でもやっている。これをあれだけの距離で動かすって、時間の余裕もない中では無理である。一方、小中学校併設、いわゆる小中一貫校の建設は考えられていない。もし将来的にも一中を活かしていくのだということであるなら、駅前の開発はどんどんされると考えられるため、やはり学区は基本的にはそのまま、地元住民の方も迷惑をかけないし、新しく来られた方も気持ちよく住むことができる。

先ほど、区域間の確執は持ちたくないと言われていたが、小中学校併設の新しい学校ができて学区が変わると言われれば、誰でも学区が変わるということは納得できるのではないか。経済面もあると思うが、やはり子どもたちのことを考えれば、パンクしているところをあっちこっち使い回すのではなく、やっぱり新しい校舎を建てるなり、抜本的に今の校舎を倍に広げるといふことを考えるなり、もうちょっと将来があるような提案をいただかないと、その場しのぎではちょっと困るのではないか。

回答者 ご意見、ご指摘というところではごもっともというところで受け止めさせていただき、学校をつくるという点については、この開発のエリアの中にまとまったところという中で、唯一、防災公園、近隣公園の予定地で2.2ヘクタ

ールというところがある。そこについても都市計画決定をされている。変えればいいではないかというようなお話もあるが、今回の区画整理という中で位置づけられて、都市計画決定をされたということから、この都市計画決定を変更するというをしようとしたときには、また区画整理をまた1からというような展開にもなると聞いており、その辺も含め、関係部局と相談の上、再度確認、検討し、次回、ご説明できるようにしたい。

質問者 今、説明のあった、第一中学校に5、6年生を移すなんて論外にしても、移すためにはプールを壊して、テニスコートを壊して、校舎を新設するのか。その金は幾らかかるのか。

回答者 基本的には校舎を建てるというところでは26億円程度。

質問者 26億円もかかる。一方、谷津小学校は10年待たずに寿命が来る。説明のあった2.2ヘクタールという防災公園と称する、今、草がボウボウの地がある。そこに新たに耐震補強が完全にできている新校舎を建てて、そこにピーク2,000人の児童を収容するということは全く問題なく、誰に迷惑もかけずに解決できる。

新しい助役がお見えになったのは、実は国土交通省出身なのだよ。一時的に小学校用地に借りればいいだろう。借りて、そこに建てればいい。15年くらい経ってこの事態が落ち着いた後も、壊して公園用地にする必要はなく、公園がなきゃ困るよといったら、今の谷津小学校のところを壊して、そこを公園にすればいい。

質問者 15年後に生徒は減る。そしたら、無用の長物になるような言い方を市はするが、実は私も参画しているのだが、市は古い公共施設をたくさん持っている。ここ（谷津コミュニティセンター）なんかは廃止の対象になっている。そういうものをつくり直すときに我々が主張したのは、学校は学校、公民館は公民館、図書館は図書館というのはやめましょうということになっている。その立派な建物が建ったら、谷津小学校の生徒が減ったところで図書館とかコミュニティとか老人施設だとか、保育園だとか、地域に役立つ施設を一緒にできれば一番合理的なものだし、習志野が今進めているような公共施設再生計画のモデルになれる。

26億もかけて今だって狭いグラウンドを更に狭くして、中学3年生と小学校5年生が遊んでけがしたら誰が責任取るのか。

あその土地は市が11億で買っている。11億の3億は国庫補助。だからそ

れが足を引っ張っているのであれば、3億返せばいい。学校を建てたら、文科省から半分以上は補助金が出る。40億かかったとすれば20億補助金が出る。3億を返して20億もらったらいい。

次にURについて。谷津パークタウン。あれで7,000人なんだよ、ちょうど。あれを建てるときに、いっぱいになるからと南小学校を建てたのだろう。習志野市はここで突然大人口をいきなり抱えたわけではない。一回学習している。

質問者 今のお話、多分お金かかるところの試算、いろいろなところからお金を引っ張ってくる、今日のお話ぜひ、何回かヒアリングをやられていると思うから、ぜひ録音するなり、なぞるなり、本当は教育委員会の方だけが窓口でやられているのはちょっと我々おかしいなと思いながら聞かせていただいていたので、もうちょっと上の立場でコーディネートできる立場の方を含めて、窓口の方だけやられているのはつらい話だと思うので、市全体でこういうふうにするんだよ、そこに必要な金がこうで、もちろん最大限保障していただいた上の話だが、これで将来の習志野をこういうふうにするということを示していただければ、市長はまだ若い方だから、そういう気概も体力もあると思いますから、そういう話をつくり方をしていただいて、それで、最低限これだけお金がかかるけど、それはいいですねというところは皆さん納得できるような雰囲気がつくれるのではないかと。というのをぜひ持ち帰っていただきたい。

回答者 今おっしゃっていただいたことで、庁内全体をやっていきたい。

質問者 ちょっと私あまりこの辺の詳しい背景とかを詳しく知らない状態で来たので、すごく初歩的な質問になってしまうようで申し訳ないが、違和感を感じたのが見積りの資料で、専門業者の推計結果というのをいただいていると思うが、この後にまた仲よし幼稚園の跡地、750戸という形で書かれているけれども、その上の推計結果には、それも全部踏まえたものが入っているということで大丈夫か。最初のサチヤさんの質問と少し被るかもしれないが、気にしているのは、前提としている見積りが大幅に狂うようなことがあると、また何度も元に戻っちゃうかなと思っていて、その辺がきちんとわかるようにある程度見える形にしていきたい。

回答者 今のご質問は専門業者による推計結果ということに、仲よし幼稚園跡地750戸が入っているかということであるが、これは仲よし幼稚園750戸公

表前なので、これには入っていない。そのため、今後、お示しする資料には、入れた形の数値というところも明らかにした中でご説明をしたいと考えている。

質問者 それはぜひお願いしたい。同じように、計画がまだわからないとか、そういった用地があるのかないのか、そういうことが調べられるのかも私はよくわからないが、そういう不確定なところがあるのであれば、そこもちゃんと情報として開示して、皆さんの手に簡単に届くような形で、ホームページに最新の情報がちゃんと記載されているとか、もしくは広報とかでちゃんとそういうのが定期的にアップされるとか、そういったところをちゃんとお願ひしたいなと思う。

もう1つが、私自身は3歳の娘がいるのだが、実際にこういった、この問題が一番影響を受けるのは、この問題が起きるときに小学校、中学校に通っている子どもとそれを持つ世帯かなと思っていて、なので今現状の小中学校の方に説明会というのはもちろん行っていくのはすごく大事だとは思いますが、本当の当事者というのはまだ気づいてない、もしくは自分のことだっていう形でとらえてない方がいらっしゃるかなと思っていて、実際にさっきの見積りとも絡みますけれども、この時点では確実に問題が起きる。そこの問題に直面する方は、今何歳の子どもを持つ方なのかというところをまずちゃんと発信してほしい。そこからかなと思っていて、こういう説明会にそういう人がどんどん出てこない、話として進まないかなと思うので、よろしくお願ひしたい。

質問者 2点の要望と2点の質問がある。1点目が今までの方のお話と重なるが、この推計の話で、推計の前提条件として何が条件になっているのか。最初のページで示されている7,000人の2,800世帯、そこは多分そんなに変わってないはずだと思うが、条件としては今までの話で読んだ限りでは23年9月のマンションのアンケート結果が反映されているということだと思うが、各アンケートなり、推計が計画時点では何を前提に子どもの数、その条件としてどう設定されていて、今回の業者の推計ではどう設定されていて、今後の計画ではどう設定されている、そこら辺をもう少し、今問題となっている子どもの部分の条件がどう変わっているのかというのを示していただくようにお願いしたい。それが1点目。

2点目が、これは一部質問にも重なるが、仲よし幼稚園の跡地等の話が出ていたが、今、既に建築されている奏の杜の721戸、それから隣の建設が始まっている建物があるかと思うが、仲よし幼稚園の跡地はまだ駐車場の更地

になっていて業者が決まっているという段階だと思うが、計画の中で、先ほどの黄緑のお話とかもされていたけれども、今後の7,000世帯、逆に言うと720がきて、860、1,500ぐらいが決まっているのだとすると、その後の世帯を変更するということはできないのかなという質問と、子どもの数としてこれだけ影響が出てくるというのであれば、その計画の見直しをお願いしたいという質問と要望が3点目。

最後の質問が、最初にお話をされた方の質問と重なるが、今回のこの話がどういう形で集約をされて、どの場面で、例えば教育委員会なのか、どういう形で検討されて、意思決定されて、12月にフィードバックされるのか。今、お話を聞いている限りだと、最後のページにあるように、要望があれば伺いますと、10月12日、これから日程を設定したりすると、11月とかに入らる中で、意見をまとめて習志野市の中で意思決定として、我々にフィードバックするのが12月までに本当に現実的に可能なのかどうかというのが非常に怪しくて、今までの意思決定の過程を見ていると、結局ガス抜きで意見だけ聞いて、最終的にこうなりましたという形になるのは、やっぱり住んでいる者としては一番不満というか、何とか改善してほしいなと思っているので、今後の決定の意思決定含め、その意思決定の過程に市議会の方、市長、市民が選出している方が含まれるのかどうかも含めて、どのようなスケジュールが明確にご回答をお願いしたい。

回答者 1点目のご質問の、これまでの従前の推計がどうであって、今回がどういう条件設定なのかということについては、従前の推計、これは谷津小学校の現況の通学区域だが、その中に開発される世帯数が2,800世帯というような決定の中で、その開発エリアに2,800世帯について当時は少子高齢化、今もそうだが、そういう流れの中ではさほど子どもさんがという考え方はとっていなかったんだろうというようなことが1つある。

そういう中で、この谷津小学校の既存の谷津の地域で、子どもさんがどれぐらい発生しているかというような比率をこの2,800世帯に乗じた中で算出している。そのため、当時の考え方でいけば、1世帯あたり0.136人程度というような見かたをしていたということである。

その後、お叱りを随分受けているところであるが、我々としても対応してこなかったというようなところでは、現状においては若い世代の方も住居を購入しやすい環境が整っているというようなところもあって、今回は基本的には今これから発生していくであろう子どもさんについては、市内では大久保地区にも一時期の開発というものがあったということ、そして東習志野地区にもあったという、そういう傾向も踏まえて考えたのが1つ。

それと増加の要素については、アンケートの傾向、こういったものが果たして今後入居される新しいマンションもそれと同じような傾向なのかどうか。こういったものを専門的な見地から判断をいただく、そういうことの条件設定の中で行っていただいた。その結果、基本的にはやはりその地域で住み着いていただける傾向、これを用いるのが妥当であろうということから、基本的にはアンケートの傾向、こういったものが踏襲されているのが1つ。それと31年度以降に新たに子どもさんが生まれる傾向、これについては大久保の開発をとれば入居後2年後にはまた生まれる数というのが伸びるというような傾向、こういったものをとらまえた中で、子どもさんの人数を算出しているというのが今回の推計の結果になっている。

質問者 皆さんがこの会議に参加しているわけではないので、資料の中に今おっしゃったように2,800世帯、7,000人で、計画のときは0.136人を設定していた。今回の業者の推定では、その2,800と7,000は変わってなくて、0.136という数字がこういうふうに変わっていると、欲を言えば、そこに今おっしゃったような理由がこうこう、こういう理由で変わっているというのを出示していただいたほうがよりわかるのでお願いしたい。

回答者 今後の開発エリアの中の世帯の数、こういったものを変更できないものかということについて、基本的に2,800世帯という部分については計画されている世帯数ということなので、実際に各土地を所有する地権者の方々がどのような土地利用を図るかということについては、都市整備部の情報連携という中で把握する以外ないが、基本的には地権者の意向という部分が強いので、現時点、市で把握しているというようなところでは変更はないというのが現状になる。

次に、日程について。私ども、今回全体の保護者の説明というのを9月から行ってきている。それで地域の皆さまにも今日から入っていくわけだが、その説明をした後にやはり電話等の問合せと新たな意見というようなところで、かなり皆さんに与えている影響が大きいところがある。そういったご意見等々を今一度聞くというような展開が必要になってくるのかなと考えている。

ただ、一定程度、12月というところを崩さないで、2回目の説明ということ考えたときには、11月下旬、12月上旬というような中で、セットしなければならぬだろうというところは考えているが、その辺については少しお時間をいただいて、周知をさせていただくということと、どのように決定していくかということについては、全庁的な対応というようなことも必要な

案件の1つであるので、市内部における協議期間というものもあるので、そこで協議をさせていただき、そういう中で教育環境という子どもたちの視点というところを重要視した中で、教育委員会のほうで一定程度、皆さんの意見を聞く中で判断しなければならないだろうというように考えている。それを通学区域審議会へ諮問するのだが、12月には諮問しなければならないだろうというように考えており、その中で最低でも年度末までの間には決定されないと、一定の通学区域を変更するということであれば、周知という点では難しくなってくると現時点では考えている。

質問者 これは次回で構わないが、2点目の計画変更云々で、私も勉強不足なのだが、江戸川区か江東区かなんかで、一度計画されていたのを変更したというような話を聞いたことがあるので、今回なぜできないのかという部分を、次回もう少し詳しく説明していただければというのが1点ある。
それから、スケジュールについては、そうすると12月の通学区域審議会が1つの分岐点になるというか、というふうに理解しておけばよろしいか。

回答者 審議会は1回とは限らないので、その過程というところで受け止めていただければと思う。

回答者 東京都の都市計画決定の話だが、その地域がこれから都市計画決定をするという段階であれば変えることも可能かと思うが、計画の段階と、習志野市の場合は都市計画を決定しており、その用途地域を決め、それで地権者さんが土地を売っている。もう既にほとんど売られている。皆さんご存じのように、低層住宅地域は大体2階建て、中高層だともうちょっと20メートル、それから高層地域だと結構高いものが建つ。それをもって売買されているわけで、ほとんどもう売買されており、その中でそれを変えるというのは難しい、難しいというか無理なことである。

質問者 なぜ都市計画に学校の話が入ってなかったのか。

回答者 最初に説明したように、谷津小学校の中で当初大丈夫だということで、入っていなかった。

質問者 見込みが甘いのではないか。

回答者 今となっては、本当に見込みが甘いととらまえている。

質問者 今の変更できない根拠、なんていう法律なのか。

回答者 都市計画法など様々ある。

質問者 それは変更絶対できないと定められているのか。

回答者 財産権に関することであるので、変更できない。

質問者 そんなこと住民の人も学校がそこにあるのに別のところに通うなんていうこと納得しないのだから、みんなで決めればいい。学校をつくるのは誰も協力してくれるはず。ただ、話してないだけ。きちんと説明すれば、そこにパチンコ屋ができるとか、そんなら怒るけど、学校をつくるのに誰も怒らない、そんなの。だから法律なんてきちんと理由が立って変えることなんかできる。

質問者 0歳児の赤ちゃんの女の子が1人いる。オオタさんが最初におっしゃったみたいに、向山のあたり、ちょっと散歩でぶらぶらしたが、昼間でも結構さびしいところで、本当にベビーカーとか引いていくのはお母さんたちすごく怖いだろうなというのは本当にわかる。

今、私は有給というか育児休暇をとっていて、来年の4月から1時間ぐらい電車で離れたところに復帰する予定である。子どもは保育園に入れて、学童保育を小学校は受けさせようと思っている。これはもちろん学童に限ったことではなくて、クラブ活動がすごく盛んな地域なので、クラブとかやった後のお子さんたちが、1人で、習志野市って閑静でそれがまた魅力だとは思いますが、そういうところを1人で歩くというのが親としてすごく心配である。学区割とかいろいろ案はあるかと思うが、ぜひ考えていただきたいのが、通学する子どもの安全をぜひ確保していただきたい。クラブ活動とかもそうだし、学童に行った子とかが犯罪とかに巻き込まれることがなく、毎日行き帰りが無事にできるようなことをぜひお願いしたいと思う。

質問者 あそこは殺人事件も起こったところだからね。

回答者 安全対策という部分についても次回の説明の際にはお示しというようなご意見も全体の保護者にもいただいているので、その辺については検討して説明をできるように対応したいと考えている。

質問者 子どもは0歳児、これから生まれてくる子もみんな同じ、奏の杜、ほかの地域、等しく安全面を確保していただきたい。

質問者 全体のトータルのバランスに関しての質問だが、教育委員会の方も皆さん、この間にいろいろと関わっていたと思うが、この資料を見ている限りだと、10年前にもう場所が不足するというのをわかっている、10年経って、こういった課題になっている。その10年間にまちが動き出して、人が住むようになってきて、それでも予測できたと思うが。連合町会のほうの役員もやっていて、去年もこの周辺の抱える問題に対しては、本当に何度も耳を傾けてきたし、いろいろと意見も言ってきたけれども、ざっと見た限り、去年していたことでは一中の道路はさんで向かい側に商業施設ができる、今既に谷津小学校の周辺には既存の商業施設、店舗ができています。ただ、つくったのはいいけど、周辺のインフラが守られてない、その上にいまだに歩道の未整備なところが多い。安全面でも大変。大人から見て、子どもの目線はもう全く周知できない。子どもが抱えている、考えているのは大人が読み取ることではないと思うけど、読み取ることができるのは普段接している我々だと思う。

よく考えてみたら、この開発そのものにどれくらい教育委員会のほうも携わって、身を接して携わることができたのか、この開発そのものが本当に正しかったのかというのを正直な気持ちで答えてもらいたい。

回答者 まちづくりという点では成功であったと認識している。

質問者 谷津2丁目に住んでいる者だが、この複数案について、案の2と3と5と6を見ると、谷津2丁目は今、向山地区だけれども、谷津南ということか。

回答者 谷津2丁目の国道14号から南側については谷津南に行っていたかということ想定した形でやっている。

質問者 14号より駅よりだと……。

回答者 北側は向山小学校。

質問者 小学校、幼稚園、中学校に説明をされた。保育所はこれからという話を聞いている。私も共働きで4歳と1歳の子どもがいる。妻は東京まで働きに出

ているし、今後、小学校を想定した場合にできるだけ家の近くかつ学童があることというのは、これは生活の軸になる。共働きとして生活をする、これは当然の権利であり、これが継続できないような市民というのはおかしいというのが1点。なので、保育所に今から説明をして12月までに意見を集約する、これは無理な話である。特に、今から保育所に入る方々もいる。特に、こういう新しいマンションは、私もそうだが、ちょうど子どもが生まれる、生まれたという人ばかりである。もう少し、働く年代の人間、子どもが生まれる、生まれたばかりの人間を想定して時間軸を考えてほしいと思う。できる限り保育所、児童施設などへの情報の開示のスケジュールをできるだけ早く連絡をしていただきたいと思います。

回答者 保育所での説明に関し、同様のご要望もいただいている。そういう中で調整をしようとしたが、保育所というところになると、広範囲にわたるといふようなところから、今回のこの地域の方々への説明の中で、ぜひお受けいただければというように1つは考えている。

質問者 保育所にこれから入所される方、来年度に入所されるという人、もう11月までに入らないといけない。そのため引越してくる人もいる。もう1点は、保育所にこの件に関して、詳細な情報が行ってないので、その連絡をお願いしたい。

回答者 了解した。

質問者 谷津4丁目に住んでいて、幼稚園の年長ともうすぐ2歳になる子がいる。向山小学区というのも谷津南小学区になる可能性が少なからずあるという現状だと思うが、私たち向山幼稚園に通っている親たちの中では、まだちょっと情報が錯乱していて、袖ヶ浦西小に行かされるのではないかとか、中学校も三中に行かされることのあるのではないかとということで、かなり噂が錯綜している。

谷津小学区の方々にはこのような説明会という形が設けられていて、詳細に表にさせていただいてそれぞれ配られているかとは思いますが、向山幼稚園の子たち、もしくは私たちの近くの子たちの親にはそういった情報が詳細に行き届いていないのが現状である。

向山小学校の説明会というのは10月26日にあるらしいよということは聞いたが、それも現状小学校に行っている在校生のお母さんがいらっしまった場合に聞けた話なので、今回、私が今ここにいるというのも実際にその噂を

聞いたことで、市役所に直接問いかけて、谷津小学区の方じゃなくても来ていただいて構わないのでということでここに初めて足を運びにくることができた。今後、少なからず向山小学区や谷津南小学区にもかかわってくるのだと思うが、先ほどの方もおっしゃっていたように、もっと小さい子どもたちを持っている親も含めて、どのようにこれから説明会というものを周知させて開いていくのかということと、私たちの意見をより吸収していただくということが大前提になるかと思うが、その時期まで、あと2カ月程度あると思うけれども、その中で、どれくらい自分たちで集められると想像しているのかということのを明確に教えていただきたいと思う。

少なからず幼稚園年少のうちの息子でさえ、学区が変わるのが嫌だと、学校は変わりたくないということは認識しているので、そこも周知していただければと思う。

回答者 今回、説明をしている当該校というところと、移転をするという幼稚園の谷津幼稚園には説明をしている中で、向山幼稚園には説明をしていないが、それは向山エリアについても、今回の周知する時間との兼ね合いもあろうかと思うが、町会の回覧というような流れの中で、周知はさせていただいているけれども、少し、私どものほうで行き届かなかった。

回答者 おっしゃるとおりである。
谷津小学校の全体保護者の説明に入った段階で、その議事録と合わせて順次資料等も含めて掲出していくというところであったが、谷津小学校の全体保護者の議事録という部分で、手前どもの勝手な話で議事録の業務的にまだ終わってないというところがあったので、早急に対応して掲出していくというようにしたいと考えている。

質問者 その結果、ホームページで開示して見られるようになるのか。

回答者 説明会の日程等、ホームページに掲出させていただくというところでご案内をさせていただく。

質問者 奏の杜3丁目に住んでいる。ちょっと今回の谷津小とははずれてしまうかもしれないが、谷津小は大分古い建物で老朽化が進んでいる。あと10年とかでどうのこうのとあったが、建て替えるにしろ建て替えないにしろ、よくわからないのだけれども、建て替えるにしても、ある日突然新しくなるわけではないと思うので、どこかに新しく建てなければいけないと思う。でも、今

のお話だと、今の計画の中では建て替える場所はないという話で、新しく学校を建てる場所がないということは、何年後かにはまたここにある1,000人規模で小学生が分散しなきゃいけないということになるのか。現時点で、僕のところはまだ2歳なので、今回の件でもそうだが、建て替えるときにもう一回学区再編があるというのは結構こたえるなと思ったのだが、そこら辺についてはどうなのか。

それとも、もう建て替えるところはないから、70年、80年と使っていく、というふうになるのか。まだ言っていないけど、実は建て替える場所があると。その辺どうなるのか。多分今回みたいな件が、32年度以降に計画ということは、7年後にもう一回こういう紛糾するようなことが起こってしまうのか。

回答者 谷津小学校はもう築50年を経過して、非常に老朽化している外壁の爆裂、鉄筋のむき出しというようなこともある。そのため、これについては建て替えというか施設の更新が必要だというような形では考えている。市のほうの取組として、公共施設再生というような計画づくりもしているわけだが、そういう中で、谷津小学校については、その更新時期についてその計画が1期、2期、3期という6年刻みの中である中で、谷津小学校については2期、31年以降に今の素案の中では位置づけられている。ただ、それについては、この谷津小学校の児童増加対応という中で、前倒しというようなことも含むような素案の状況にある。

それともう1点、建て替える場所については、建て替える場所というのはいない中で、今回、建て替えを完了した津田沼小学校、こちらのほうは子どもたちがいながらも学習をしながら建て替えをしたという形になっている。既存のグラウンド側に校舎を新築して、既存の校舎を解体する。そして、解体後のところをグラウンドに整地をしていくというやり方である。そのため、これが習志野市での前例ということを見ると、谷津小学校も今のグラウンド面に校舎を建てて、既存校舎のところをグラウンドにするという展開なのか。ただ、校地的に狭いというところでの工夫があるのかどうかというところは今後考えなければいけない。あとは建て替え中のグラウンドの確保というところも課題にはなろうというようなことは各校同様に課題としてある状況である。

質問者 そうすると少なくとも、その課題がうまくいかなかったときには、また1,000人規模の生徒をどこかに分散して受け入れるなりの対応が起きる可能性があるという認識で合っているか。それともそういうことが起きないよ

うな対応をするということか。

回答者 今のご質問は、校舎の更新に当たって一定時期違う学校へその間移っていただくということがあるのかなのかというお話だと思うが、これらについては、隣の船橋市さんは通学区域を変更して、その間だけというような形で行っているという状況もある。それが本市でそのようにするかどうかということは、今の段階で明確にお答えすることはできない。

質問者 多分、受入先の教室もこの計画だと既にパンパンだと考えられる。分散させるにしてもそこも足りなくなってしまうと思うので、何か考えてほしい。

回答者 それでは、本日は非常に貴重なご意見、ご要望をいただいたので、これらを持ち帰り精査させていただく。なお、回覧では回り切らないというところのホームページの掲出、こちらのほうは速やかに対応させていただくということ。そのほか議事録等、資料これらについてもできる限り早い段階で掲出をさせていただくということを対応させていただきたいと思う。

～閉会～